

Ⅶ. キャリア形成を軸とした総合人間科の取り組み

第1章

「キャリア意識の形成」プログラムにおける研究

今村 敦司

【抄録】 総合人間科は本校における「キャリア意識の形成」をはかる「総合的な学習の時間」を科目化した授業である。中1から高3まで、個人又はグループでテーマを設定し、事前学習を行い、フィールドワーク先を探して準備し、フィールドワークを行い、その結果を発表と集録で皆に報告するという形をとっている。高校3年生、卒業生にの授業に対する満足度、有用感が一番高く、生徒の高い支持を誇っている。

【キーワード】 生き方 生命と環境 平和と国際理解 総合的な学習の時間

総合的な学習の時間とキャリア教育

平成17(2006)年からスーパー・サイエンス・ハイスクール(SSH)の取り組みが始まった。6か年の教育課程の中で育成するものとしてサイエンス・リテラシー(科学的思考力)が新たに盛り込まれたが、それとは別に、併設型中高一貫カリキュラムには自覚的なキャリア意識の育成が柱となっている。そのキャリア意識の形成を図るため、本校では総合的な学習の時間である「総合人間科」の授業をあてて取り組んだ。授業の基本コンセプトは以下の通りである。

多くの人との出会いや多面的な学習から自分の興味・関心が何かを探りながら、大学との連携を活かした豊かな学習環境の中で自己の学習を跡づけ、将来の自分の生き方について、ともに学び合いながら自覚的に選び取る力(自覚的・自立的キャリア意識)を育成する

また、生徒に身につけさせたい力としては以下の5点に集約される。

1. 探求力
2. 共感力
3. 多面的な観察力
4. 人・社会・環境に対する適切な自己認識力
5. 人や社会への関係形成力、関係調整力

SSHと総合人間科

今年はSSHの2度目の指定を受けて3年目になる。今回のSSHプログラムの中では「キャリア意識の形成」は外されたが、Dの力は総合人間科の授業で育てら

れており、SSHの目標にも寄与する学習となることは間違いない。

本校でのキャリア教育が狭義の進路指導だけのものではないことは先述した通りである。また、総合人間科が本校の教育課程の中核を担うという構造は、SSH第2期になっても変わっていない。本校のサイエンス・リテラシーは自然科学領域のみを対象とするものではなく、理系の進路を取る生徒を育成することだけが目的でない。あくまでも生徒一人一人が、自分の関心と適性にに応じて自分で進路を選び取っていく力をつけることが目的である。

一方、第1期SSHの取り組みと変わったのが「D問題を設定し、他者と共同して解決する力(他者との協同)」の部分である。学習過程の中で協同的な学習活動の導入がこれまでより強く意識されることとなった。

以下に各学年の取り組みを示す。